

神中しーぶん

平成26年
6月20日

神原中
不定期12号

先輩に学ぶ!!

— 3年進路学習会 —

去る十八日(水)午後二時より、三年生とその保護者を対象に「先輩に学ぶ進路学習会」が行われました。

当日は、途中から体育館の屋根を激しくたたき雨となりましたが、生徒の皆さんは最後まで集中して先輩方の話に耳を傾けていました。

①仲宗根先生(那覇商業 教諭)

高校の先生として、皆さんにお話ししたいと思います。高校の皆さんと顔を合わせる機会は入試の時です。今年から遅刻のカウントの仕方が変わり、授業の遅刻も記入されるので、注意してください。面接の時に、ちゃんとした言葉遣いができない生徒がけっこういます。「：です」「：ます」などの語尾が丁寧でなく、友達感覚で話す生徒がいる。言葉遣いは、日頃からトレーニングした方がよい。日頃から使っている言葉が面接の時に評価されている。点数が同じぐらいだと、実際に面接の結果で合否が決まってくることになる。

「お礼のことば」

「学年主任の挨拶」、最後に司会による「おわり」

②玉那覇仁(那覇高 普通科)

校内の自販機の飲み物が安いことが特徴の一つです。生徒の学力は高く、面白く教え方がうまい先生方が多い。高校の学力の違いは、どこまで教えるかのノルマの違いである。二年で文系・理系に分かれる。部活動は全部で三十五あり、中学校にないものも多い。高体連の全県での総合成績は男子一位、女子四位、総合三位です。文武両道の学校で、県内で一番在籍の多い学校です。中学校のときは、授業で習ったことは、その日の授業で積極的に発表していました。また、授業で積極的に発表してました。授業の始まる前に、その日の内容を前もって確認し、授業に臨んでいました。最後に、努力が必ず報われるとは限らないが、成功している人は必ず努力しています。

お礼のことば!!

— 生徒代表 城間宗近 —

面接の話を聞いて、テストだけでなく、言葉遣いや礼儀等が大切である。面白くない先生がたいてい、授業態度や結果にこだわらない。テストが受からないと、自分自身を責める。先生は、自分の強みを生かして、自分の得意な分野で頑張る。先生は、自分の強みを生かして、自分の得意な分野で頑張る。先生は、自分の強みを生かして、自分の得意な分野で頑張る。



先輩方→

③比嘉 学(那覇西高 普通科)

三つの学科があり、授業内容等も違うので、色々な人がいる。普通科の中には、クラスだけ特進クラスがあり、テストの結果で決まるが、三年間あまり顔ぶれは変わらない。国際人文科は、英語の授業が多く、第二外国語も勉強している。二年ではオーストラリアでの研修もあります。人文科には個性的な人が多いが、校則はちょっと厳しいかもしれないが、

④長嶺大智(小禄高 普通科)

小禄高校は環境の良いところで、一人の生徒の乗りのいい学校です。志望校は、できるだけ早く決めた方がよい。でも焦って決める必要はなく、自分に合った高校を見つけていくことが必要です。志望校の決め方は、人それぞれだと思う。志望校を決めただけではだめで、受検という壁を乗り越えなければなりません。自分の目標に向かって、勉強を頑張ってください。

(裏面に続く)



7月行事!!

1日	二年社会体験学習 ～3日まで
	安全点検日
4日	教育相談③
6日	市PTAバレー
7日	朝の人権放送 中期時間割開始 職員会議
8日	教育相談④
9日	神原High祭 オーディション
10日	生徒会専門委員会
11日	合同授業研究会 (午後授業なし)
15日	神原High祭 リハーサル
16日	教育相談⑤
17日	大清掃
18日	日本漢字能力検定 全体朝会
	一学期前半終了
	神原High祭 夜間街頭指導
20日	県大会総合開会式
24日	三者面談 ～25日 9:00～12:00 13:00～16:00予定
28日	合同研修会(三校)
30日	校内研修 ～8/1

8月19日 一学期後半開始

私は、勉強があまりできる方ではなかったのですが、授業態度から変えることにしました。分らないことを分らないままにせずに友達や先生に聞きました。受検はとも緊張する体験です。絶対に合格するんだという強い気持ちを持って、勉強していけば、自信を持てると思います。今できることを精一杯やっていくことが大切です。

⑤ 本部太一(浦添高 普通科)

古島駅から徒歩で5分ぐらいの学校で、バスも多く通学にも便利です。体育祭と文化祭が毎年あるのも県内高校では浦添だけです。自分はぎりぎりまで進路決定できなくてバタバタしたので、できたら早く決めた方がいいです。早く決めることにより、計画が立てられ、時には息抜きもしやすくなる。決めきれない人は、内申点を上げること集中したら良い。そうすることで、どの高校へ行くかという選択の幅が広がります。さらに、周りの人に色々相談して決めてください。部活動が終わってからは、夏休みは毎日六、八時間ぐらい勉強しました。暗記することが苦手だったので、ひたすら書いて覚ええました。過去問とかプレ入試問題を片っ端から解いていきました。それで、どういう傾向の問題が出るのかということや頭に入れました。行きたい高校を受けるのが一番だと思います。そのために、しっかりと努力して欲しいです。皆さんが行きたい高校で楽しい学校生活を送っていることを祈っています。

⑥ 饒平名楓花(浦添工業 調理科)

四つの学科からなり、調理科は料理をする事が中心です。包丁の研ぎ方や野菜の切り方など、基本的なことから学んでいきます。鱈取りや内臓取り出しなど、魚をいちからさばっていくこともやります。そして自分で調理して昼ご飯にしたりします。上達していくのが目に見えるので、やりがいがあります。三年になると、フルコースとか先生方への定食販売もやります。三年生の最後には、集大成として両親を呼んで立食パーティーをし、今までの成果を発揮します。調理だけでなく、栄養学や食品衛生等についても学びます。もともと料理と食べることが好きだったので、調理科があると分かった中二の時点でここしかないと思えました。勉強が本当に嫌いだったので、普通科行って大学というのは考えなかった。勉強が嫌いな代わりに、中央委員や学級委員長などをずっと積極的にやってきました。自分が本当に行きたいと思ったら頑張れると思う。高校生活は、本当に楽しくて、この時期だけが辛いと思うので、皆さん頑張ってください。

⑦ 野崎 萌(那覇国際 普通科)

志望校を決めたのは、一年生の終わり頃でした。決めた理由は、とてもあさはかで、「制服がかわいい」「メインプレスが近い」というようなものでした。いざ入学してみたら、課題がとても多く、他の高校と比べて行事が少なかったり、入学前のイメージとは少し違っていました。修学旅行は、マレーシアやシンガポールです。琉大への進学率がとても高い。入学した頃は、とても辛くて転校したいとも考えていました。皆さんにとつて、最良の進路選択をやって欲しい。高校を選ぶことだけが進路選択ではなく、その先の未来までも選択することになるのです。できるだけ多くの情報を集めて決めてください。大事なことは、一つ目は授業をしっかり聞きます。そして塾で復習することで理解が定着する。二つ目は提出物をしっかり出すことです。先生方はちゃんと皆さんを見ているのは間違っています。高校は入学してからが本当のスタートです。内申点を上げるのは、今からでも遅くありません。高校受験に合格することがゴールだと思っっているのは間違っています。高校は入学してからが本当のスタートです。高校入試はその準備に過ぎません。私にとつて、高校に入ってからの方が何倍も大変でした。特に推薦合格者は気をつけてください。内定後に勉強していたかどうかで、入学後に大きな差が出てきます。三日ががんばれない人は、一ヶ月、ましてやこれからの長い人生をがんばることなどできません。自分のために最良の選択をし、小さなことからでいいので頑張ってください。後悔することがないように…。

⑧ 仲西咲綾(那覇商業 会計科)

私が進路を決めたのは、中学三年の九月頃でした。就職の時に有利な資格がたくさん取得でき、社会に出てから必要な知識が学べるということから決めました。一般入試を受ける人は、評定の低い人は提出物をちゃんと出し、学校でも塾でもちゃんと勉強することが大切です。日頃の身なり・あいさつ・言葉遣いは、受検の面接の練習だと思つて、気をつけた方がいいと思います。三年間部活を続けたことも実績となりました。那覇商業は部活が盛んで、商業ならではの部活もあります。三年までには、かなりの資格に挑戦できます。学科ごとの対抗競技等も盛り上がりがあります。意外だと思ふかも知れませんが、卒業後すぐに就職するのは二十九%で、大学・短大進学が二十一%、専門学校進学が五十%になっています。就職の中には、県内銀行をはじめサンエーなど、優良企業に就職する人もいます。県内外の大学への指定推薦枠も数多く持つており、琉大への推薦枠も四名持つています。最後に、遅刻・欠席をしないこと、提出物を必ず出すことです。行きたいと思つたら、親や先生に反対されても、絶対にあきらめずに目指してください。行きたいという気持ちが強い分、頑張ることができると思います。聞いてくれてありがとうございました。